

四谷の

千枚田だより



第164号

ら現在では千枚田の田んぼ全部が生きものの空間・ビオト

横浜ゴム新入幹部研修

四月五日、横浜ゴム新城工場新入幹部社員二十五名が四谷の千枚田で社員研修を実施した。

保存会のメンバーは早朝七時半から会場設営に、おっ母さん達は昼食準備に係わった。九時到着、研修開始にあたり市鳳来総合支所地域課松井課長からの歓迎の挨拶を皮切りに講師の(舜)は、日本の棚田の三大急傾斜地、高低差二百以上に広がる棚田の厳しい耕作条件を貫く百姓の苦労や変遷、また、ビオトープに移殖したモリアオガエルやヤマアカガエルの生態、その波及効果か



ープと位置付けられている。また、このことから田園自然再生コンクール大臣賞や生物多様性国際会議(COII)招致に貢献した等々を説きながらふれあい広場を目指したが、中間点の県道までは痛い足を我慢して昇ってきたが、激痛が襲い、さすがの「男山」(若いころの村相撲の四股名)も限界。長谷川班長にバトンタッチ、同社が千枚田で取り組む河川モニタリング調査や二か所に造成されたビオトープの実践、効果などの説明を受けた。十一時、ふれあい広場周辺の環境整備を実施。

昼食は千枚田を荒らす猪のシシ汁と湧水・天日干しの贅沢品「ミネアサヒ」を振る舞ったところ好評でスタツフも、もてなしがいがあった。交流会は松下事務局の軽快なテンプで始まり、穂積新城市長さんから将来を担うホープに会社を尽くし、新城市に尽くし(市に住み、税金を納める)て頂きたい、と挨拶。県新城設楽農水事務所竹内建設課長から「ふるさと水と土ふれあい事業」に於ける施設整備、また、「ふるさと水と土指導員を通した各種活動における支援の実施等々の挨拶に続き、全社員が出身地、将来展望などの自己紹介があった。新人の多くが「一日も早く工場長を目指す」また、アルバイトで店長代理の経験のある新人は「今でも、班長になれ

る」には微笑みを誘った。各班長は人生論や心得などを説いた。永尾工場長は「企業が地域に貢献、環境に配慮するのは当然の使命である」と社員に切々と説いた。恒例の交流会は横浜ゴム、行政、保存会にも意義な場であったことは間違いない。千枚田入口で研修終了にあたり千枚田に何かとお世話になってい藤沢さんから保存会へのお礼の挨拶が、また、自らの体験談として「決して甘く、穏やかではなかった、我慢と努力が報われる」と説いた。最後に初代保存会長高橋庄一から、まだ、毛が生えそるわんが、千枚田が元気にしてくれる、皆さんも頑張りん」と笑いを誘った挨拶でめた。別れ際、新社員の氣勢から握手を求められたのは嬉しかった。

第三回奥三河パワートレイル

四月三十日に実施される奥三河パワートレイルのエイドステーション(前線応急救護所・水分や食べ物(前線応急救護所)として四谷の千枚田「ふれあい広場」を第二関門会場となり参加選手に「おにぎり」や「シシ汁」でもおもてなしを行う。(第二関門通過者は次回の参加資格が与えられるため、参加選手はミネアサヒのおにぎりやシシ汁を脳裏に描き、何が何でも千枚田まで辿り着き、迎える家族共々悦に入る。よって、此処でのリタイアが多い)



難関に挑む楽しさや喜びがここPOWER TRAILにはある!
奥三河の美しさ、優しさ、そして過酷さがトレイルランナーを待つ!

こうした事業、行事は行政区単位に委ねられるが四谷地区は五十戸余りの小集落で区長様も毎年変わる状況で千人規模の参加者を取り仕切るには中々難儀で区長様、行政から保存会へ依頼、一任され、初回の大会から協力を行っている。

諸事情を察し、連谷地域の皆さんに心地よいおもてなし、応援にご協力をお願いします。

横浜ゴム(株)新城工場は五日の社員研修の折、沿道整備、清掃活動をお願いしたところ、今年も快くお引き受け頂き、大会前の二十七日、二十八日に実施の連絡を受けました。

奥三河パワートレイルは、茶臼山高原から湯谷温泉まで七十^キの山道を駆け、十三時間以内のゴールを目指す。今回は九百六十一人がエントリーする。

ヤマアカガエル

ヤマアカガエルの産卵は春の一番始めの雨の日に必ず産卵する。昭和晩年までは二月下旬頃の最初の雨で産卵していたが、最近では天候不順で厳寒期にも雨が多く降るようになった。最近でみると、昨年の正月頃はまれにみる厳寒の日が続いたが十日の雨で産卵、翌日から寒さがぶり返り、卵塊が氷に閉じ込まれてしまったがゼリー状の卵塊で守られているためすべて孵化した。今年は一、二月三十日の雨で一回目が産卵、今年も例年になく雨が

四月七日までに七回の産卵が確認された。五回〜七回目に産卵した卵塊は初回と二回目のオタマジャクシ(二週間程度で孵化する)が一日にしてすべての卵塊を食べてしまい、自然の摂理がうまく機能している。フェイスブック三月二十七日投稿

「んご」さんに千枚田五平餅として古米(五平餅は新米は水分が多く、落ちやすいため、古米を使用する)を付加価値をつけて購入して頂き、郵便局の宅配便や道の駅などで販売、好評を博している。

毎年頂いているカレンダーを来年は千枚田の農耕風物詩的に計画、鈴木社長さんと杉浦正先生が訪れた。先生は日本己書道場の総師範・早稲田大学講師も務められる大家であり、来年のカレンダーが今から楽しみです。



来客

四谷の千枚田は耕作面積も少なく、一般にはほとんど流通はしていない。耕作者は非常時(飢饉)に備えた余剰米を豊橋の製菓会社「八雲だ



今後の予定

・ 四月三十日、パワートレイル協力田植え

- ・ 五月七日、愛知東農協こども農学校
- ・ 五月十一日、豊橋調理製菓専門学校
- ・ 五月十七日、鳳来寺小学校五年生
- ・ 五月二十日、新城高校農業クラブ

行 平成二十九年四月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二